

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立富屋小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 21 人

② 算数 21 人

③ 理科 21 人

5 留意事項

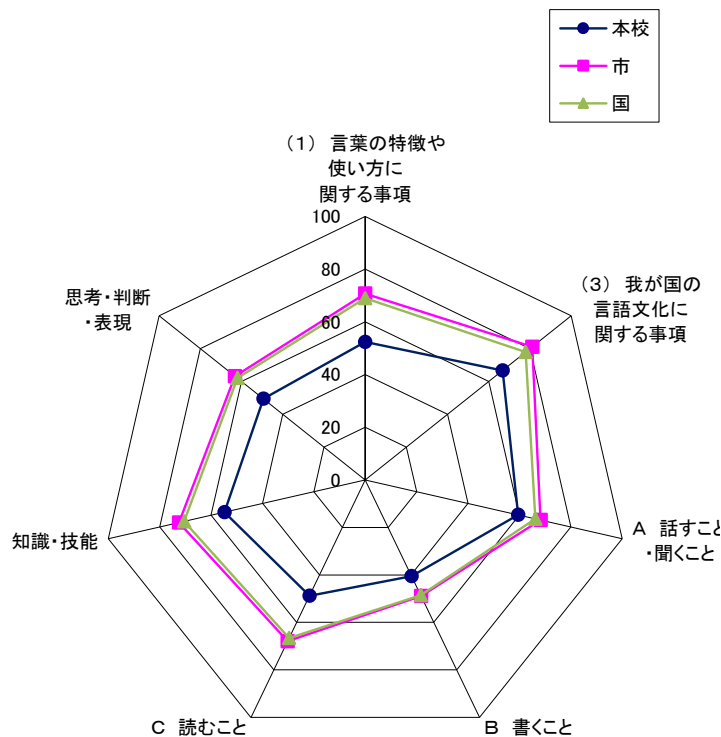
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	52.4	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	66.7	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	59.5	68.2	66.2
	B 書くこと	40.5	48.9	48.5
	C 読むこと	48.8	67.9	66.6
観点	知識・技能	54.8	72.5	70.5
	思考・判断・表現	49.4	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

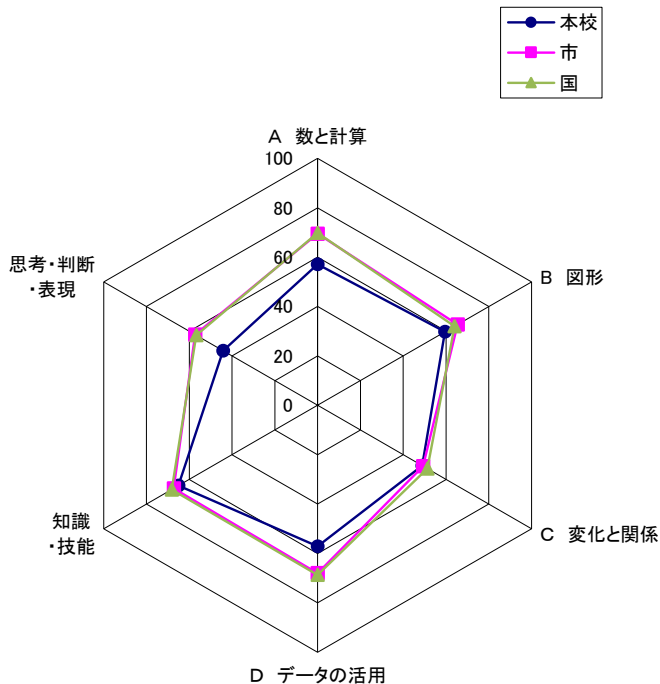
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○話し合いの中で、発言した理由を選択する問題の正答率は、県の平均と同等である。 ●漢字を文中で正しく使う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。特に、無回答の割合が多かった。	・引き続き、国語の学習だけでなく様々な場面で話し言葉と書き言葉の違いを理解させたり、言葉の働きに着目して文章を読んだりする機会を意図的に設けていく。 ・今後も漢字練習やAIDドリルを使用した漢字の読み書きの復習に取り組んでいく。また、練習をするだけでなく、書いた文章を読み直し適切に漢字が用いられているかを確認したり、学習した漢字を使って文章を作ったりするなど、漢字の意味を理解し、文章の中で正しく使える学習方法を工夫する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●相手の読みやすさを考えて書くときに気をつける内容として適切なものを選ぶ問題の正答率は、県や全国の平均を下回った。また、無回答率が多かった。	・引き続き、文章を書くだけでなく、読み手の立場に立って読みやすく書くにはどのようにしたらよいのかを考える機会を設け、正しい文章の書き方を意識させる。 ・どのように書けばよいのかポイントを明確に示し、文字の位置、字間、行間などの効果的な在り方を意識させる。
A 話すこと・聞くこと	○必要なことを質問し、伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえる問題の正答率は、県や全国の平均と同等である。 ●互いの立場や意図を明確にしなが話し合い、自分の考えをまとめる問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。無回答はないが、問題に対する解決策が記述されていないなど、条件を満たしていない回答が5割以上いた。	・話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめる機会を設け、自分の考えと比較する経験を積み重ねる。 ・国語だけでなく、他教科においても、友達の見解に対して自分の考えを明確にすることができるように、インタビューの機会を設けたり、話したり聞いたりするなどの言語活動を意図的に取り入れるなど、児童一人一人が自分なりの考えや意見がもてるようにする。
B 書くこと	○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文章を整える問題の正答率は、県や全国と同等である。 ●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける問題の正答率は、県や全国を下回った。文章から言葉を選んで書いているが、条件を満たしていない記述の回答が3割以上いた。	・今後も書く機会を多く設け、簡単に書いたり、詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする。 ・互いの書いた文章を読み合う機会を設け、具体的に感想や意見を述べ合い、自分の文章の良いところを見つけることができるようにする。
C 読むこと	○人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題の正答率は、県や全国と同等である。 ●登場人物の行動や気持ち、相互関係について、叙述を基に捉える問題、表現の効果を考える問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。	・物語文を読む際、内容面だけでなく、表現面に着目して読むなどして全体像を具体的にイメージさせる。 ・登場人物の相互関係や心情をとらえるために、行動や会話、情景などにも意識して読むことができるようにする。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	57.1	69.5	69.8
	B 図形	59.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	48.8	49.3	51.3
	D データの活用	57.1	68.0	68.7
観点	知識・技能	65.1	67.3	68.2
	思考・判断・表現	44.2	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

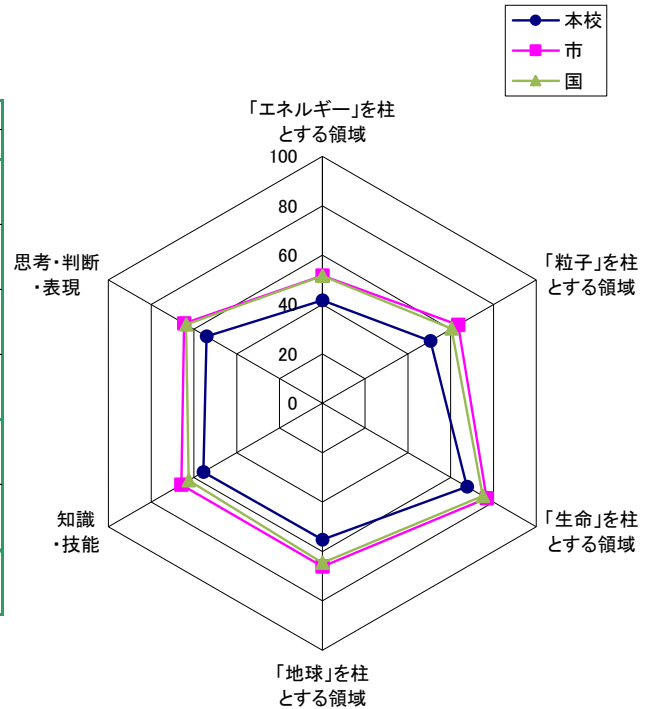
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○被乗数に空位のある整数の乗法の計算問題や、示された場面に合うように数を概数に直す問題についての平均正答率は全国平均と同等である。</p> <p>●問題の場面を理解し、答えが除法で求められる理由を記述する問題の平均正答率は、全国平均を大きく下回った。絵を見て分かることのみ記述で終わっている割合が3割ほどいる。</p> <p>●示された問題場面において、条件に合うように数を概数に直す問題についての平均正答率は、全国平均をやや下回った。</p>	<p>・朝の学習の時間などを利用して、加法、減法、乗法、除法が混じった問題に取り組み、反復練習を多く取り入れることで基礎的基本的な計算問題の習熟を図る。</p> <p>・文章題を解く際に、問題の場面を具体的にイメージし、問われている数量が何かを意識することで、正しい立式ができるよう支援する。</p> <p>・およその数の学習について、条件に合うように数を大きくみたり小さくみたりするなど、目的に合った数の処理を行い習熟を図る。</p>
B 図形	<p>○示された手順で作図した長方形において、二組の向かい合う辺の長さがそれぞれ等しいことを理解し、辺の長さを正しくかく問題についての平均正答率は、全国平均と同等である。</p> <p>●正三角形を作図する際の角の大きさに着目し、正しいかき方を手順に沿って記述する問題の平均正答率は、全国平均を大きく下回った。正三角形の角の大きさには着目できているが、回転する角の向きや大きさ、辺の長さについての誤答が3割以上いた。</p>	<p>・図形を決められたやり方で作図させるだけでなく、辺の数や辺の長さ、角の大きさに着目して、作図の仕方を筋道を立てて説明できるようにする機会を意図的にもつようにする。</p> <p>・図形の意味を理解したり、図形の性質を見付けたり、図形の性質を確かめたりすることを、様々な機会において復習させる。</p>
C 変化と関係	<p>○果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの果汁の割合を答える問題の平均正答率は、全国平均を上回った。しかし、全国平均正答率が2割と低く、本校においても量を半分にすると割合も半分になるとする誤答の割合が5割であった。</p> <p>●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題の平均正答率は、全国平均を下回った。</p>	<p>・日常生活の具体的な場面に対応させながら割合について理解させたり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるよう、習熟を図る。</p> <p>・伴って変わる二つの数量の間に比例の関係があることを見付けたり、その比例の関係を用いて、未知の数量を求めることができるよう、習熟を図る。</p>
D データの活用	<p>●表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目してある項目に当てはまる数を導き出す問題の平均正答率は、全国平均を下回った。</p> <p>●人数にポイント数を掛けて合計ポイントを求める仕方を解釈し、表から必要な数値を読み取って、加法と乗法の混在した式を立てて答えを求める問題の平均正答率は、全国平均を下回った。計算の順序についての決まりに従った回答に課題が見られる。また無回答の割合も高い。</p>	<p>・日常生活の事象についてや、各教科においても、目的に応じて、様々な表やグラフの読み取りをさせ、グラフからどんな特徴や傾向が分かるかや、表の数値が何を表しているかを文章で記述させる機会を設け、習熟を図る。</p> <p>・データを分類整理させたり、様々な表やグラフから条件に合った読み取りをさせたりする機会を設け、データの活用力を身に付けさせる。</p>

宇都宮市立富屋小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	41.7	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	50.5	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	67.6	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	55.2	66.1	64.6
観点	知識・技能	55.6	65.9	62.5
	思考・判断・表現	54.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○日光の進み方の理解については、県や全国の平均正答率を上回った。 ●光の性質を基に、問題の解決に必要な適切な記録の仕方を選ぶ問題では、県や全国の平均正答率を下回った。	・日常生活と理科の関連性に目を向け、これからも関心を高めていく。 ・実験の視点をしっかりと理解させようで実験を行い、結果のまとめ方についての習熟を図る。
「粒子」を柱とする領域	○メスシリンダーの正しい使い方の理解については、県や全国の平均正答率と同等である。 ●自然の現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することについては、県や全国の平均正答率を大きく下回った。無回答の割合や条件に合わない回答の割合が高かった。	・実験や観察の活動では、実体験を伴う理解ができるよう器具の取り扱い方について丁寧な説明をしたうえで実験を行う。 ・実験を行う前に問題の視点を明らかにして、全体で話し合いながら、実験方法を導き出したり、予想や仮説を立ったりすることで、課題解決の課程の中で、筋道を立てて問題解決ができる力を育成していく。
「生命」を柱とする領域	●問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことについては、県や全国の平均正答率を大きく下回った。 ●提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことについては、県や全国の平均正答率を大きく下回った。	・既習内容や生活経験を基にしながら、解決の根拠となる予想や仮説をしっかりと立て、実験、観察を行うようにする。 ・調べた結果に対して視点をもって考察して分析する活動を取り入れ、観察実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録できるようにしたい。
「地球」を柱とする領域	○気温の変化について、結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことについては、県や全国の平均正答率を大きく上回った。 ●天気と気温の変化を基に、実験の結果から分かったことをまとめる問題については、県や全国の平均正答率を大きく下回った。	・実験の方法や結果について考えたり説明したりする活動を充実させ、根拠のある実験の方法や予想を立てることで、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 ・問題解決の過程として、結果と考察の違いを意識させてまとめることができるようにする。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強は大切か」「算数の勉強は大切か」の質問には、100%の児童が肯定的に回答した。また、「国語の授業はよく分かるか」「算数の授業はよく分かるか」「理科の授業はよく分かるか」の質問には、肯定的回答が90%以上あり、県や全国の平均を上回っている。児童が意欲的に学習に取り組むことができるよう、今後も児童の理解度を把握しながら、実態に即した授業や指導を実践していく。

○「住んでいる地域の行事に参加しているか」の質問には、100%の児童が肯定的に回答した。学校行事や総合的な学習などと関連付け、今後も、学校と地域が連携を図りながら地域を知り、地域のよさを感じることができるような学習を取り入れていく。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の質問には、100%の児童が肯定的に回答した。また、「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問には、90%の児童が肯定的に回答しており、県や全国と同等、もしくは上回っている。相手を思いやり行動することの大切さを伝え、最高学年として学校生活の様々な場面で実践することができるように支援していく。

○「自分には、よいところがあるか」「将来の夢や目標を持っているか」の質問への肯定的回答は、80%を超えており、県や全国の平均を上回っている。自分のよさを認め、夢や目標に向かって自信をもって様々なことに意欲的に取り組んでいくことができるように、学習だけでなく、学校行事などを通して、達成感を味わったり、自己有用感を高める場を多く取り入れたりしていく。

●「学校の授業以外で、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか」の質問に、「全く読まない」と回答した児童が県や全国をやや上回っている。「新聞を読んでいるか」の質問には、「全く読まない」と回答した児童も県や全国を大きく上回っている。「読書は好きか」の質問には、肯定的回答が県や全国と同等ではあるが、学校以外での読書量や読書の経験が少ないことが分かる。今回の各教科の調査結果から、様々な文章に触れる機会が少ないことにより、文章を読んだり、それを理解することにも影響がでると想像される。児童が読書を通して、様々な文章に触れることができるよう、図書館司書と連携を図りながら、本を紹介したりする機会を設ける。また、新聞においても、授業などで意図的に取り入れたり、児童が自由に読むことができるような場を設定したりしていく。

●スマートフォンのきまりについての質問の「使い方について、家の人との約束を守っているか」については肯定的な回答が90%を超え、県や全国の平均を上回っているが、使用時間については、「4時間以上使っている」と回答した児童のが27.3%おり、「放課後や週末に何をして過ごしていますか」の質問では、「家でテレビや動画、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている」と回答した児童が86.4%と県や全国の平均を大きく上回っている。このことは、視力や体力の低下・規則正しい生活習慣とも結びついてくるので、家庭や養護教諭などと連携を図りながら対応していきたい。

宇都宮市立富屋小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
多様な視点から課題について考えることができる協働的な学習の指導の工夫	目的に応じたグループ学習や視点を明確にした話し合い活動を、教師が意図的にコーディネートする。	「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、86.4%で県より4.3%程度上回っている。
分かりやすく伝える力や、正確に受け止め学び合う力を育てる工夫	一人一人の思いや願いをもとに、共通の視点をもって話し合うことができるよう、事前に自分の考えを書かせることで、伝える力の向上を図る。	「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、72.8%で県より8.9%程度上回っている。